

第3期第7回 帯広市産業振興会議 議事録要旨

日時：平成26年5月19日（月）14:00～

場所：帯広市役所10階 第5A会議室

I. 開会

II. 会長挨拶

III. 報告

■平成25年度帯広市産業経済実態調査報告書について

（委員）

報告書の最終的な公開スケジュールを確認したい。

（事務局）

6月20日に行われる産業経済委員会終了後、今週中にはホームページに公開していく。加えて、ヒアリングに協力いただいた企業に対しては報告書の概要版を郵送する予定である。

IV. 協議

■帯広市産業振興ビジョン見直しの進め方について

（委員）

部会ごとにスケジュールを分けて論点について検討していくのか。部会によって活動の濃淡が出てしまうのではないか。

（事務局）

部会ごとに事務局として担当課が開催日程など調整していく。本日は資料として提出していないが、論点整理のための作業シートを現在作成しており、そのシートに考え方などを落とし込んでいく作業を部会で行っていただく。作業シート完成までに3～4回部会を開催する必要があると考えている。

（委員）

作業スケジュールの中の「骨子の検討」と「原案の検討」の違いはなにか。

（事務局）

骨子については、整理した論点に対する具体的な対応を中心に検討する。原案については、産業振興ビジョンの中で示しているデータや文言の修正を含め、全般にわたり整理することを考えている。

（委員）

部会には産業振興会議の委員を割り振り、更に臨時委員を依頼するとのことだが、市として臨時委員の候補は考えているのか。

(事務局)

庁内でも部会の担当課より候補を挙げていただいている。

※事務局より腹案について説明

(委員)

研究者や大学の先生などを入れてはどうか。

(事務局)

産業振興ビジョンの作成にあたりご協力いただいた慶応義塾大学の植田教授に、今後のビジョン見直しに対して協力を依頼している。6月に帯広で講演いただくことで現在調整しており、その中で今後の見直しに対してアドバイスをいただくこととなっている。また、平成24年度の産業振興会議で講演いただいた北海学園大学の

大貝先生に対しても、ビジョンの見直しについて協力を依頼している。両先生については、骨子や原案の作成段階など、節目で助言をいただくように依頼していきたいと考えている。

(委員)

以前、産業振興会議にゲストとして参加した方に対し、臨時委員として参加依頼はできないか。

(事務局)

可能であれば参加していただきたい。

(委員)

部会において、委員でない人を臨時的に呼んで話を聞くのは可能か。

(事務局)

ぜひそのような取り組みを進めてほしい。

(委員)

部会に臨時で呼ぶ際は事務局を通じて依頼する必要があるか。

(事務局)

日程の調整、依頼も含めて事務局で対応するため、事前に相談してほしい。

(相談役)

中小企業振興施策は公平性の視点が重要ではあるが、熱意のある企業から定着をはかっていくことも大事である。

産業振興ビジョンの作成時は、中心市街地などの商業に関することは検討課題ではなかったため、今回は議論されることを期待している。

また、他の事業者にも輪を広げることが大事である。次の世代の人も含めて、さまざまな人に議論に参加する機会を作ってはどうか。

フードバレー政策は産業政策として中小企業振興施策と重なる部分があるが、今後福祉分野など、さまざまな分野にフードバレー政策が発展していく中、産業振興との区分けなどもしっかりと考えていってほしい。

(委員)

なかなか政策が末端まで浸透していないという実感はある。様々な方に、自分も関係のある政策だと認識いただいた上で進めていけば議論も効果的と感じる。

(委員)

経営基盤の部会に会計事務所の方を臨時委員として入れてはどうか。

(委員)

見直しにかなりの時間を要するため、見直し作業が終了した頃には時代が変化しているように感じる。変化に追いつくやり方も必要ではないか。現場の人が興味を持てるような、わかりやすい報告書も必要なのでは。

(委員)

スピード感が必要というところに関して、論点を整理した上で具体的な施策を提案できるかが重要と感じる。

(委員)

論点の中でいかに具体的な施策を提案できるかが重要。今まで論議できなかった問題も含めて、会議の中で提案をしていきたい。

(委員)

色々な切り口で議論を深められるように、臨時委員について考えていきたい。

(委員)

アンケートをとってみて、当初の産業振興ビジョンを作成した頃とどのような変化があったのかを把握し、どこがどのように変わったかを資料として見られるといい。また、当時作られた産業振興のロードマップを復習するような機会があると、頻繁に参加できない委員も会議に参加しやすいのではないかと感じる。

(委員)

本産業振興ビジョンは帯広市のものであるが、十勝における帯広市の立ち位置を考えると帯広市だけが良ければいいというものではない。オール十勝の考え方をもちながら、十勝を牽引するリーダーシップを帯広が発揮できるような検討をしていきたい。

V. その他

(事務局)

臨時委員については改めて最終案を提示するが、その際に委員の皆様にも推薦いただきたい。多少の入れ替わりや当日のみの参加もできるように柔軟に考えていきたい。

植田先生の講演会では、委員、臨時委員に加えて一般の方にも公開で行っていくことを考えている。部会で検討するにあたり、植田先生の講演の後に、講演会の参加者から意見をいただくようなことも考えている。

また、部会に部会長を置き、円滑に部会を実施していきたいと考えている。事務局で検討し、改めて依頼するのでよろしくお願ひしたい。

VI. 閉会